

平成 28 年度「大阪市英語力調査」（「英検 IBA」）に おける阪南中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、大阪市教育振興基本計画*に基づき、英語イノベーション事業*の一環として、「大阪市英語力調査」（「英検 IBA」）を実施いたしました。この調査の目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることです。

学習指導要領における中学校英語の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」と示されております。本調査で測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

- 1 目 的
 - (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
 - (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対 象 大阪市立全中学校 生徒 1～3年生

※本校では 3年生 249人 平成 28 年 11 月 4 日（金）実施
 2年生 227人 平成 28 年 11 月 2 日（水）実施
 1年生 246人 平成 28 年 11 月 7 日（月）実施

3 内 容

学年	英検 IBA の種類	英検（目安）	テスト内容		満点 スコア
			リーディング問題	リスニング問題	
3年	テスト C	英検準 2～5 級レベル	35 題	30 題	1100 点
2年	テスト D	英検 3～5 級レベル	35 題	30 題	1000 点
1年	テスト E	英検 4 級・5 級レベル	35 題	25 題	800 点

* 大阪市教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

* 英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

平成 28 年度 「大阪市英語力調査」(「英検 IBA」)の結果の概要と今後の取組 阪南中学校

■ 調査内容

学年	英検 (目安)	テスト内容		満点 スコア
		リーディング問題	リスニング問題	
3 年	英検準 2 級～5 級レベル	35 題	30 題	1100 点
2 年	英検 3 級～5 級レベル	35 題	30 題	1000 点
1 年	英検 4 級・5 級レベル	35 題	25 題	800 点

■ 調査結果

【「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は分野別平均正答率(%)】

3 年	学校平均スコア(点/1100 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 3 級レベル以上の割合 (%)
	767.1 点	62.9%	63.5%	58.8%	57.8%
	市平均スコア(点/1100 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 3 級レベル以上の割合 (%)
2 年	723.9 点	54.0%	56.6%	51.1%	38.9%
	学校平均スコア(点/1000 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 4 級レベル以上の割合 (%)
	688.8 点	70.0%	65.8%	67.7%	73.1%
1 年	市平均スコア(点/1000 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 4 級レベル以上の割合 (%)
	650.6 点	64.1%	58.4%	61.8%	61.4%
	学校平均スコア(点/800 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 5 級レベル以上の割合 (%)
1 年	554.0 点	71.8%	56.8%	70.7%	93.1%
	市平均スコア(点/800 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 5 級レベル以上の割合 (%)
	509.2 点	63.7%	50.0%	61.6%	80.6%

■ 結果の概要と今後の取組について

学年	結果の概要と今後の取組
3 年	「語い・熟語・文法」「読解」の 2 分野では、平均正答率が 60%を上回っている。それに対して「リスニング」は平均正答率が 60%に達していない。 授業でリスニング問題を解く時間をつくり、リスニング力を高める機会にしたい。また、C-NET を効果的に活用していく。
2 年	3 分野とも平均正答率が 60%を上回っている。「語い・熟語・文法」の平均正答率は、重要文法・単語・連語の反復練習及び小テストを継続的に実施してきたので、70%に達している。しかし、「読解」の平均正答率は 65%にとどまっており、本文以外にも英文読解練習の時間を確保する必要がある。また、「リスニング」の平均正答率については、70%をめざし C-NET と協力をし、さらにアクティビティを工夫していく必要がある。
1 年	3 分野ともに市平均を上回ったことは、学習内容に関して相対的には定着していると考えられる。「語い・熟語・文法」や「リスニング」の観点に関しては 70%以上の平均正答率であるが、「読解」に関しては、56.8%と他の観点に比べて低いため、英文読解の演習を取り入れていきたい。さらに質問の理解や、未習の単語をどのように推測していくかなど、具体的に英文を理解する練習を取り入れていきたい。また、長文を理解するうえで語句を増やすことは不可欠であるため、単語の意味を覚えるだけでなく、派生語や使い方についてもできるだけ紹介し、繰り返し覚える時間を取る必要がある。